



2003年9月、パレスチナ出身の世界的知識人、エドワード・サイドが亡くなった。世界の核心に迫ろうとしていたサイドの、精神の在り処を求めて映画の旅が始まった。シリア、レバノン、エジプト、イスラエル、パレスチナそしてニューヨーク…。最後に辿り着いたのはOUT OF PLACEという地平だった。

エドワード・サイドの「不在」の風景のなかを、ゆったりと美しいカメラが、いつまでも追ってゆく。パレスチナ、イスラエルの苦しみのひだひだが照射される。人々の色濃い思い出を横切るサイド。そしてサイドの「希望」が私らの頭上に現れる。

大江健三郎 (作家・文学者)

#### ■監督の言葉

パレスチナという巨大な問題の底知れぬ奥深さに恐れおののきながら、サイドのテキストだけを指針に中東諸国を旅して廻った。永遠に失われたパレスチナでのサイド一家の痕跡を描いた自伝「OUT OF PLACE」を、将来に向けた共生の夢物語として読みかえられないかと願って、旅を続け、多くの人々と出会った。故郷を奪われたパレスチナ難民も、様々なディアスポラ体験の末にイスラエルに迫りついたユダヤ人も、境界線上に生きていることには変わりがない。その不安定で揺れ続けるアイデンティティを大らかに受けとめようとする人々を通してなら、そこにサイドが終生希望を託そうとした未来が見えると思った。「OUT OF PLACE」であることは、あらゆる呪縛と制度を乗り越える未来への指針なのかもしれない。



佐藤真



#### エドワード・サイド プロフィール

1935年イギリス委任統治下のエルサレムに生まれる。父の事業のためにカイロで育ち、15歳で渡米。後にコロンビア大学英文学教授。比較文学の世界で重要な著作を数多く発表する一方、文学批評家としても世界的に知られる。また、パレスチナ問題の代表的な論客として注目を集め、右傾化するアメリカの言論界において、妨害・迫害にもかかわらず勇気ある発言を続けた。

2003年9月25日白血病に倒れる。享年67。  
 主著「オリエンタリズム」「パレスチナとは何か」「文化と帝国主義」「知識人とは何か」「過い場所の記憶-自伝」(OUT OF PLACE: A Memoir)「バレンボイム/サイド 音楽と社会」など。



#### ■推薦の言葉

映画はエドワードの人生を思索的に探りながら、ゆっくりとエドワードが棲んだ世界に観客をいざないます。エドワードは出てこないのに、映画の隅々までエドワードの存在に満ちあふれている…。そのようなしなやかな通じて、彼の思想や、彼の国および民の物語が、見事に浮かび上がっています。

マリyam・サイド

出演：マリyam・サイド/ワディ・サイド/ナジュラ・サイド/ジーン・サイド・マクティスィ(以上、サイド家親族)/ダニエル・バレンボイム(指揮者・ピアニスト)/ノーム・チョムスキー(言語学・政治哲学)/アズミ・ビシャール(パレスチナ系イスラエル国会議員)/ミシェル・ワルシャウスキー(人権活動家)/イリヤース・フーリー(小説家)/イラン・バベ(ハイファ大 パレスチナ現代政治史)/ギル・アニジャー(コロンビア大 中東言語文化学)/ゴリー・ビスワナサン(コロンビア大 比較文学)ほか

スタッフ：企画・製作 山上徹二郎/協力プロデューサー ジャン・ユンカーマン/監督 佐藤真/撮影 大津幸四郎 東原朗 佐藤真/監音 弦巻裕/編集 柴島志/翻訳・監修 中野真紀子/助監督 ナジーブ・エルカシュ 屋山久美子 石田優子/プロダクションマネージャー 佐々木正明/ナレーション 宝亀克寿/テキスト朗読 山川建夫/協力 臼杵陽 橋銅哲 舘田愛子ほか/音楽：ダニエル・バレンボイム演奏 シューベルト 即興曲 変イ長調 作品142-2(D.935, No.2)デュオ・エスペラント 「Strings of Hope (パレスチナ・イスラエルの若手音楽家による共演集)」より

製作・配給：シグロ

公式サイト：<http://www.cine.co.jp/said>

書籍「エドワード・サイド OUT OF PLACE」

みすず書房刊 評録シナリオ全編、佐藤監督による制作ノートに加え、チョムスキー、バレンボイムほか本編でカットされた関係者のインタビューを多数収録 四六判/256頁/2100円(税込) TEL:03-3814-0131(みすず書房)